



第 24 号
平成29年10月12日 発行

朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合 3

TEL : 0235-58-1730

FAX : 0235-58-1731

E-mail:t_syounai_f@maff.go.jp

Home Page:http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/

第1回朝日自然塾 ハッチョウトンボ観察&大井沢で一日昆虫博士

7月8日(土)に山形県西川町大井沢で西川町役場、西川町大井沢自然博物館・自然と匠の伝承館の協力を得て実施しました。

去年は雨天のためハッチョウトンボ観察は取り止めとなりましたが、今年は好天に恵まれ西川町、山形市、新庄市等7市町から22名の家族が集まりました。

午前は、カッチャバ湿原で昆虫や植物等の観察を行い、ウルシに触らないことや蜂が寄ってきても手で払わない等の注意すべきことを学びながら、お目当てのハッチョウトンボを探しましたが、時期が早か



捕まえた？

ったため残念ながら確認できませんでした。しかし大井沢では珍しい、ヒメギフチョウの幼虫を観察したり、オゼイトトンボ等は沢山確認できました。また、クマタカの飛翔も確認できました。

午後は、昆虫博士が集めた昆虫の標本を使ってクワガタムシ等の生態の説明やヘラクレス等の珍しい標本や色鮮やかな標本を見せてもらいました。また、クワガタムシを採集する方法として、生息場所や採集方法と注意点について話を聞きました。



昆虫生態の説明

小学生による広葉樹更新補助作業

7月13日(木)鶴岡市あさひ小学校5年生30名による朝日山地森林生態系保護地域内(保全利用地区)でスギ人工林から天然生林へ誘導するため、広葉樹の更新を促す下刈りを実施しました。

当日は小雨の中、合羽を着ての作業で蒸し暑く大変でしたが、けがもなく無事に作業を終えることができました。

作業を終えてから、ブナコース、ミズナラコース、モミジコースの3コースに分かれて葉っぱスタンプラリーを行いました。なかなか、葉っぱの見分けがつかなく大変苦労しました。

児童たちは、森林での作業の大変さを十分感じ取れた日となりました。



手鎌で刈り払い



第2回朝日自然塾 みんなで歩こうタキタロウへの道



足元に注意しながら進もう

7月14日（金）、鶴岡市立あさひ小学校5年生児童30名、教師3名、自然塾のスタッフ8名の総勢41名でタキタロウが棲む大鳥池を目指しました。

梅雨の合間の晴天に恵まれ、児童たちは元気一杯。岩場やぬかるみ、沢の中、足場の悪い幾つもの難所を、励まし合いながら皆で乗り越えました。最後の急斜面「七曲り」を息を切らしながら登り終えると、そこには伝説のタキタロウが棲む大鳥池が。初めて目にす

るその景色の雄大さに驚きの声や歓声があがりました。

森林の働きやそこに棲む動物、珍しい草花、そして山でのルール等、普段教室では聞けないたくさんのお話を学びながら、全員が元気に登山を満喫しました。



ついにたどり着いた大鳥池（標高963m）

第3回朝日自然塾 フロが教えるイワナ釣り

7月22日（土）鶴岡市大鳥東大鳥川に、下は幼稚園児、上は72歳の年配まで23名の参加者と、講師・スタッフ11名の総勢34名で実施しました。

梅雨特有の厚い雲に覆われ、天候が心配されましたが、釣りの時間帯だけは雨をまぬがれ、参加者は一様に溪流釣りの醍醐味と、自然の大切さを感じ取っていました。

溪流釣りは3班に分かれて行われ、最初に山形県溪流釣り協議会の講師4名から、エサの付け方や竿の出し方、仕掛けの流し方、川でのルールやマナー等を教わりスタート。ニジマスやハヤ、オイカワ、釣れるたびに参加者の顔がほころびます。約1時間30分の溪流釣りで、ほとんどの参加者が1尾以上の魚を手に入れました。



イワナじゃないけど釣れたよ



魚のさばき方

次は隣接の池に移動、イワナ等の釣りを楽しみ、釣り上げた魚のさばき方と毛針作りを学びました。昼食時には、スタッフが焼いたイワナの炭火焼きを骨まで食べて大満足。

午後は鈴木会長（山形県溪流釣り協議会）のイワナと森林の関係や、イワナ釣りの体験秘話に、真剣な面持ちで耳を傾けていました。

今回は幼稚園児や小学1、2年の小さなお子さんが多く参加し、安全面に特に気を配りましたが、その甲斐もあり、無事に終了。朝日自然塾での再会を約束し合い鶴岡市大鳥を後にしました。

オツボ峰保全作業

昨年の朝日山地合同パトロールにおいて、大鳥池からオツボ峰を経由して以東岳へ至るコース上で登山道から外れて歩行した跡やストックによる掘り起こしが見られる箇所がありました。

特にオツボ峰付近の稜線のガレ場で登山道が解りづらい箇所を確認されたことから、今年度の新たな取組として、杭を設置しロープを張って登山者を誘導するとともに植生の保護を行いました。



資材の荷揚げ



杭、ロープの設置

現地は、登山道口（鶴岡市泡滝）から6時間以上かかることから、前もって避難小屋へ荷揚げを行い、後日、避難小屋へ前泊して早朝から現地へ資材を運搬し、杭打ち、ロープ設置を行って作業を終えました。荷揚げ（自身の体も）で体力が消耗し、疲労困憊で帰ってきました。

また、七曲りでは登山道を外れてショートカットする登山者がいるため山腹が荒廃している箇所があり、昨年に引き続きショートカットを規制するロープを設置しています。

朝日山地合同パトロール(溪流コース)

9月13日(水)、当センター職員2名で、朝日鉱泉～朝日川～二俣～朝日俣沢の溪流コースにおいて、パトロールを実施しました。



朝日俣沢のパトロール

禁漁区で森林生態系保護地域保存地区に設定されている二俣～朝日俣沢において、釣りの痕跡や実態がないか重点的にパトロールを行ったところ、歩道から沢に下りた形跡がなく、沢の砂地にも足跡がなかったことから、結果として釣りの実態がないことを確認しました。

また、登山道を外れた踏み込みやゴミの投棄等も見られず、入山者のマナーの高さを感じ取れるパトロールでした。

朝日山地合同パトロール(山岳コース：葉山)

9月23日(土)、巡視員3名と置賜森林管理署職員3名、センター職員1名の計7名で、勸進代～葉山山頂～白兔口において合同パトロールを実施しました。



葉山山頂にて

早朝からの雨で、入林者に会えないのではと危惧されましたが、山頂で6名の登山者と接することができ、マナーガイドを手交し、動植物の保護やゴミの持ち帰り等の協力を求めました。

パトロールの結果は、植物の採取や伐採、既設登山道を外れた踏み込みやゴミの廃棄等は見られず、特に異常はありませんでした。



マナーの啓蒙

朝日山地合同パトロール(山岳コース：大鳥池)

9月23日(土)に環境省職員、国有林職員の6名により朝日山地森林生態系保護地域の趣旨や保全活動を理解し、登山者等へ朝日山地の保全に協力を要請するとともに、ゴミの持ち帰り等の入林マナーを守って山を楽しんでもらうため、鶴岡市泡滝から大鳥池までの間をパトロールしました。

今年の紅葉は例年より遅れ気味でしたが、それでも稜線付近は色付きはじめており、紅葉を楽しみにした登山者にパンフレットや携帯シュガレットケースを渡してゴミの持ち帰りに協力して頂くとともに、入林マナーを守っていただくようお願いしました。



パトロールの様子



入林マナーのお願い

パトロールの結果、ゴミの投棄はありませんでしたが、アメの包み紙やプラスチック片落ちていました。

また、途中の七曲がりではロープによりショートカットを規制していますが、ロープを乗り越えた形跡がありました。

大鳥池で出会った4名のパーティーは、泡滝から入り以東岳～大朝日岳～祝瓶山を経由して針生平(小国町)まで主稜線の縦走を二泊三日で行く計画で、「今日は天候がよくなって残念だが、明日は晴天の予報なので楽しみだ」と話していました。

朝日山地合同パトロール(山岳コース：御影森山)

9月23日(土)、山形森林管理署職員2名、センター職員1名の3名で、朝日鉱泉～御影森山間の合同パトロールを実施しました。

早朝からの雨模様で入山者は居ないのでは?と思いつつも朝日鉱泉に到着すると車が12台あり、早朝から入山している様子でしたが、中ツル尾根経由で大朝日岳を目指らしく、御影森山までは2名の登山者に会えたのみでした。2名ともベテランらしくマナーも良い方でしたがマナーガイドを手交し、動植物の保護やゴミの持ち帰り等の協力を求めました。



マナーの協力をお願いします。



落枝の除去作業

パトロールの結果は、2、3日前の強風によりブナの倒木、落枝で歩行に支障となっていた落枝等を5か所で処理を行った以外は、植物の採取や伐採、既設登山道を外れた踏み込みやゴミの廃棄等は見られませんでした。



朝日の大クロベ(周囲9.27mで日本一)

職員による朝日山地通常パトロール(大朝日岳、祝瓶山)

ハイマツの葉を食べるマツノクロホシハバチ



9月26日(火)～27日(水)、当センター職員2名で古寺鉱泉～小朝日～大朝日岳の通常パトロールを実施しました。

パトロールの主な目的は、マツノクロホシハバチの食害と登山道の刈払いによる植物の損傷状況で、マツノクロホシハバチは、かつて北海道で7,000ha以上のキタゴヨウ林が丸坊主となり、その半数以上が枯れてしまったとの文献があり、大朝日岳周辺でも平成23年に被害が確認されて以来、大量発生が見られないか監視を続けています。

今回のパトロールでは、食害が大朝日岳の周辺で確認されましたが、大量発生には至っておらず、通常の高山帯における生態系の範囲内と思われました。

また、登山道の刈払いによる高山植物等の損傷については、一部刈払い機の操作ミスと思われるハイマツ等への損傷が確認されたので、巡視員会議で注意喚起することとします。

刈払い機によるハイマツの損傷



紅葉の祝瓶山

10月5日(木)、当センター職員2名で針生平～祝瓶山の通常パトロールを実施しました。

植物の採取や伐採、既設登山道を外れた踏み込みやゴミの廃棄等は確認されませんでした。

編集後記

7月から9月は「朝日自然塾」、「合同パトロール」、「看板整備」等の業務が目白押しの中、関係機関等の協力を得て予定どおり終わることができました。ありがとうございました。

特に高山帯のパトロールは寝具や食料を背負っての行程となります。避難小屋の近くに水場がない場合は水も背負うことになり、体力が消耗して大変でした。

なお、各イベントの実施結果につきましては、当センターのHPに掲載しています。

(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/index.html>)